

【水の作文大賞】

水が築く、命への処方箋

熊本県 熊本県立八代中学校 二年 田川 あかり

私は将来、創薬研究者になろうと思っている。家族が難治性の病気で、「早く治してあげたい」と強く思ったことがきっかけだ。その思いから薬を創る仕事に興味を持ち、「創薬研究者」という職業を知った。そして、人の命を助ける薬を開発できる人になりたいと考えるようになった。

創薬研究とは、病気を治すための新しい薬を見つける仕事である。薬の材料には化学物質だけでなく、自然の中にある植物や微生物なども使われる。例えば、ペニシリンという抗生物質は、青カビの一種から偶然発見された。これは細菌による感染症にとっても効果があり、世界中で多くの人の命を救った。他にも、がんの治療に使われる薬が海の中の生物から見つかった例もある。自然の中には、まだ知られていない薬のヒントが数多く眠っているのだ。その自然を支えているのが「水」である。水は生命の源であり、多くの生物を育む場所でもある。川や湖、地下水の中には、微生物が多く生息しており、それらの中から新しい薬の素になる成分が見つかることもある。綺麗な水があることで、多様な生命が育ち、創薬の可能性も広がるのだ。また、水の流れが森や土壌を潤し、薬草や綺麗な空気を生み出す手助けをしている。

私が住んでいる熊本県は、「水の都」と呼ばれている。熊本では地下水が水道水としてそのまま使われていて、全国的にも非常に珍しいと聞いた。蛇口から出る水をそのまま飲める環境は当たり前のようには思えるが、実はとても貴重で恵まれている。この豊かな水があるからこそ、熊本の自然は守られ、薬のヒントとなる生物も育っているのだと思う。

だから私は、普段の生活の中でも、水を無駄にしないように心がけている。例えば、我が家ではお風呂の残り水を洗濯に使うようにしている。最初は少し手間に感じたこともあったが、今では家族全員が水の大切さを意識するようになった。僅かな行動かもしれないが、小さな行動の積み重ねが、水を守ることに繋がると信じている。こうした日々の習慣は、

将来創薬に関わる研究を行う上でも、自然や環境を大切にすることを育ててくれていると思う。

創薬研究でも、水は重要な役割を果たしている。薬をつくる実験や製造の過程では、必ず綺麗な水が使われる。例えば、薬の成分を溶かす時や、器具を洗浄する時には「超純水」と呼ばれる、限りなく不純物の少ない水が使われる。この水が少しでも汚れていけば、薬の効果や安全性に影響が出たり、正確な実験が行えなかったりする。薬を創るという行為は、実は水の存在に大きく支えられているのだ。つまり、薬を生み出す陰には、いつも水の力が働いているということだ。だから私は、水を守るということは、命を守る薬づくりに繋がると思う。

私は、ただ薬を創るだけでなく、水や自然の大切さを多くの人に伝えられるような研究者になりたいと思っている。自然を守ることが未来の医療に繋がることを信じ、自然を守ることが未来の医療を支えるということを知ると、研究を通して実感し、その思いを発信していきたい。特に、水を守るといふ行動が、未来の病気を治すという行動に繋がっていることを知ってほしい。そのためにも、今できることを一つひとつ大切にしていきたい。夢を叶えるには時間がかかるかもしれないけれど、自然と水の恵みに感謝し、誰かの命を救う薬を生み出せる日を目指して、私の夢が、いつか誰かの未来を照らす光になると信じて、これからも夢を追いかけ続けたい。また、自然や環境についての知識も深めて、水と共に生きる道を大切にしていきたい。いつか私の創った薬が、世界のどこかで誰かの命を救うことができたなら、嬉しい。私はこの夢を諦めず、これからも努力を続けていくつもりだ。